

第1学年生活科学習指導案

単元名 みんな だいすき

小単元名 ひとりでできるよ、だいさくせん（8時間）

1 子ども達は

○ 本学年の子ども達は、学校探検の学習で、校内の様々な人との関わりをもち、同じクラス、学年の友達、上級生、学校の先生などの「身近な人々」の存在に気付いてきた。特に学校内でいろいろな仕事や役割をしている先生がいることや、5・6年生が委員会活動で責任をもって、学校全体の仕事をしてくれていることにも気付くことができた。また学級での生活では、学級内で係活動や当番、掃除などに積極的に取り組み、友達と一緒に自分の役割をやり遂げる達成感を味わうことで、自分にできることがあることを感じ始めている。

しかし、家庭においては、身支度や片付けなど、自分でできないことも多く、自分の役割として自覚している子は少ない。そこで本単元を通して、自分のことは自分で行うことで、自分の成長に気付かせたい。

○ 本学年の子ども達は、学校探検や校区探検で出会ったものに関心をもち、友達が地域の「人、もの、こと」とどう関わっているかを見たり、まねしたりしながら、学習をすることができている。分かったことを言葉で友達に伝えることもできるようになってきた。

そこで、この単元を通して、体験したことをもとに友達と考えを交流しながら、自分の考えを見直したり、よいところを取り入れたり、相手に教えたりすることができる場の設定と活動の工夫を取り入れていく。身近な「人、もの、こと」に気付いていない友達に教えたり、友達にアドバイスをしたり、教え合ったりしながら、友達のよいところを受け入れて、自分の学習や生活に取り入れることができるようにさせていきたい。

2 教材は

「みんなだいすき～ひとりでできるよ、だいさくせん」を教材として取り上げることは、次のような価値がある。

小学校に入学する前は、身の回りのことを家族があたり前のように手伝ってくれる生活を送ってきた。また、毎日の持ち物も家族が準備をしてくれていたものを持っていくのみで、自分で用意をしなくてはいけないという意識がまだ高まっていない。

しかし、小学校に入学をし、だんだんと学校生活に慣れ始め、学校内では、給食当番や係活動など、学級の中で自分ができることを進んでできるようになってきた。この時期に自分の生活を見直し、自立に向け自分ができることを増やすことで、自分の成長に気付くことができる教材である。

- 学校や家庭生活で、自分のことは自分でできるようになったことを自覚させ自信をもたせることで、入学してから自分ができることが増えたと感じさせることができる。これは、もっと自分ができることを増やそうと、自らの思いや願いをもって自分のことに取り組む上で有効である。（感動性）（必然性）
- 自分でやろうと決めたことに取り組み、家庭でチャレンジした結果、できたことやうまくいかなかったこと、困ったこと、もっとできるようになりたいことや友達の取り組みのよさなどを少人数やクラス全体で交流することを通して、主体的に人とコミュニケーションをとることが期待できる。（双方向性）
- 自分の成長に気づき、自分自身について考えたり振り返ったりしながら、自分のことは自分ですることができるようになり、単元終了後も家庭で継続して行うことは、自立心と向上心を身に付ける上で有効である。（継続・発展性）

3 交流活動の工夫は

本小単元では、次のような交渉する力を育んでいく。

こんな交渉する力を身に付ける

【であう段階】

- 入学してから自分ができるようになったことを振り返り、自分にできることが少しずつ増えていることに気付くとともに、できることをもっと増やしたいという願いをもつことができる。
- 友達のできるようになったことをもとに、自分にもできそうなことを考えることができる。

【はたらきかける段階】

- できたことやうまくいかなかったことを話し合い、自分と友達が取組んだことを比べ、友達のいいところや頑張っているところを見つけることができる。
- 自分の取り組みをもとにして、友達に具体的なアドバイスができる。

【たかめる段階】

- 自分でできるようになったことが増えたことを実感し、自分の成長に気付くことができる。
- 自分のことは自分でできるようになると、家族も喜ぶことに気付き、今後も継続をしていきたいという思いをもつことができる。

このような交渉する力を育むために、次のような場を設定し、次のような学習材を使って交流活動を工夫していく。

場	学習材
【であう段階】 ○入学してからの自分の成長を振り返る場 ○自分にできそうなことを決める場	○学習プリント
【はたらきかける段階】 ○できるようになりたいことが同じ友達と少人数のグループで、できたことやうまくいかなかったことを伝える場 ○自分の頑張ったことをお互いに伝え合い、友達の頑張りのよさを取り入れる場	○チャレンジカード ○発表時に使う表現物 ○学習プリント
【たかめる段階】 ○自分や友達の頑張ったことを認め合う場 ○これまでの学習を振り返り、自分の成長を実感する場	○チャレンジカード ○振り返りカード ○学習プリント ○発表時に使う表現物 ○お家の方からのコメント

4 めざす子どもの姿は

- 自分のことは自分でしようとするができる。 【関心・意欲・態度】
- 自分の活動を振り返ったり、友達の活動を聞いたりすることで、よりよいやり方を考えたり、表現したりすることができる。【思考・表現】
- 自分でできることが増えてきたことが分かり、自分の成長に気付くことができる。 【気づき】

5 学習計画（8時間）

段階	学習活動と主な内容	※教師の支援	配時
であ う	<p>1 入学してからを振り返り、自分でできるようになったこと、もっとできるようになりたいことを考える。</p> <p>(1) 学校生活でできるようになったことを振り返る。 ○片付け・準備 ○掃除 ○給食の準備・片付け ○係の仕事 など ・できることが増えてきたな。</p> <p>(2) 家庭生活でできるようになったことを振り返る。 ・明日の用意が自分でできるようになったよ。 ・洋服が自分でたためるようになったよ。</p> <p>(3) 家庭生活上、もっと自分ができることはないかを考える。</p>	<p>※ 4月からできるようになったことを掲示して、たくさんの方ができるようになったことに気付かせる。</p> <p>※ 保護者にアンケートを取り、子どもの家庭生活での実態を把握し、個々への支援を考えておく。</p>	1 本時 0組
／は たら き かけ る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて1 じぶんのできることをかんがえてやってみよう！ 『ひとりでできるよ、だいさくせん』</p> </div> <p>2 自分が一人でできるようになりたいことを考えて、取り組む。</p> <p>(1) 自分ができるようになりたいことを考え、計画を立てる。 ○学校の準備 ○部屋の片づけ ○身支度 など</p> <p>(2) 『ひとりでできるよ、だいさくせん』発表会の準備をする。 ○できたこと、うまくいかなかったことをまとめること</p> <p>(3) 『ひとりでできるよ、だいさくせん』を振り返り、中間発表会をする。 ○自分が取り組んだことと、友達に取り組んだことをお互いに交流し、良いところを取り入れたり、アドバイスを رفتたりすることで、自分の取り組みを見直すこと</p>	<p>※ 家庭にも協力を依頼し、1週間『ひとりでできるよ、だいさくせん』に取り組ませ、チャレンジカードに記入させる。</p> <p>※ 友達の取り組みのよさに気付いたり、アドバイスがしやすいように、同じ活動グループで交流し、自分の活動を見直させる。</p>	3 ① ① ① 本時 0組
／た か め る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて2 もっとできるようになりたいな！ 『ひとりでできるよ、パワーアップだいさくせん』</p> </div> <p>3 もっと自分ができることに取り組み、自分のより成長した姿に気付く。</p> <p>(1) もっと自分のことができるように、『ひとりでできるよ、パワーアップだいさくせん』について、今後の計画を立てる。 ・今度はお家の人に言われる前にやりたいな。 ・もっと、いろんなことが一人でできるようになりたいな。</p> <p>(2) 『ひとりでできるよ、パワーアップだいさくせん』発表会の準備をする。 ○前よりできるようになったことをまとめること</p> <p>(3) 『ひとりでできるよ、パワーアップだいさくせん』発表会を行い、自分や友達の取り組みを振り返る。 ・今度はお家の人に言われる前にできたよ。 ・いろんなことができるようになってきたな。</p> <p>(4) 『一人でできるよ、パワーアップ大作戦』についてのまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これからも、進んで自分のことは自分でして、できることを増やしていこう。</p> </div>	<p>※ もっとしてみたいという意識を高めるために、中間発表会での活動内容を整理して掲示しておく。</p> <p>※ 家庭にも協力を依頼し、1週間『ひとりでできるよ、パワーアップだいさくせん』に取り組ませ、チャレンジカードに記入させる。</p> <p>※ 自分の成長に気付くことができるように、チャレンジカードの最後に、家族からのコメントを書いてもらうようにする。</p> <p>※ 自分の成長に気付くことができるように、もう一度自分でできるようになったことを振り返らせるようにする。</p>	4 ① ① ① 本時 0組 ①

6 本時 「自分一人でできることを考え、学習課題を決定する場面」(1/8)

指導者 ○○ ○○ 場所 1年○組教室

7 本時の目標

- 入学してからの自分を振り返ることで、自分の成長に気付くことができる。
- 友達がやろうとしていることよさに気づき、自分ができるようになりたいことを考えることができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

1 本時のめあてを確認する。

本時のめあて
じぶんでできるようになったこと、もっとできるようになりたいことをかんがえよう。

2 入学してからを振り返り、自分ができるようになったこと、できるようになりたいことを考える。

(1) 学校生活でできるようになったことを振り返る。

- 片付け・準備 ○掃除 ○給食の片付け・準備 ○係の仕事 など
- ・4月は、あまりできていなかったな。
- ・だんだんできることが増えてきたな。

(2) 家庭生活でできるようになったことを振り返る。

- ※事前に保護者にアンケートを取り、家庭でどのようなことができているのか把握しておく。
- ・明日の用意が自分でできるようになったよ。
- ・洋服が自分でたためるようになったよ。

(3) 家庭生活上、もっと自分でできることはないか考える。

- ※友達の発表を聞き、自分にもできそうだという意欲を持たせる。
- ・自分で名札もつけられそうだな。
- ・部屋の掃除も自分でできるかな。

3 今日の学習を振り返り、自分でできるようになりたいと思ったことを書く。

じぶんのできることをかんがえてやってみよう！
『ひとりでもできるよ、だいさくせん』

学習材 掲示物 (子どもたちが自分でできるようになったことの写真)

場：入学してからの自分の成長を振り返る場

○活動：交流活動を、自分の成長に気付く場面と、友達の発表をもとに、自分ができるようになりたいことを考える場面との2つに分ける。

教卓

交流活動の場

6 本時 『ひとりのできるよ、だいさくせん』の中間発表会で、自分の取り組みと友達の取り組みを交流することで、自分の取り組みを見直す場面」(4/8)

指導者 T1 ○○ ○○ T2 ○○ ○○ 場所 1年○組教室

7 本時の目標

- 『ひとりのできるよ、だいさくせん』で、できたことや困ったことなどをグループやクラス全体で交流することで、友達の取り組みのよさに気づき、自分が取り組んでいることについて、見直すことができる。
- 『ひとりのできるよ、だいさくせん』中間発表会を通して、友達の取り組みのよさを取り入れたり、友達にアドバイスしたりすることができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

めあて1
じぶんのできるよをかんがえてやってみよう！
『ひとりのできるよ、だいさくせん』

- 1 本時のめあてを確認し、前時までに学習したことを振り返る。
○できることを増やすために、『ひとりのできるよ、だいさくせん』に取り組んだこと。

本時のめあて
『ひとりのできるよ、だいさくせん』のはっぴょうかいをしよう。

- 2 『ひとりのできるよ、だいさくせん』で取り組んだことについて、発表会をする。
(1) 同じ活動のグループに分かれて発表する。
○頑張ったこと ○うまくできたこと ○うまくいかなかったこと・困ったこと
※友達のいいところを見つけたり、まねをしたいところを見つけられるよう、実態に合わせグループ分けをする。
★学校の準備(宿題や明日の用意)グループ
・寝る前までにはできたけど、忘れ物が多かったから、きちんとできなかったよ。
★部屋の片付け(机の上の整頓やおもちゃの片付け)グループ
・お家の人に声をかけられてからじゃないとできなかった。
★身支度(洋服をたたむ、名札をつける)グループ
・名札は自分でつけられるようになったから、ハンカチも自分で洗ってみたいな。
(2) グループの友達の良い点や、友達に教えてもらったアドバイスを全体に発表する。
※友達のよさや頑張っていることを広めることができるように交流させる。
・○○さんは毎日取り組んでいてすごいなと思ったよ。
・もっと、いろんなことをやってみたくなったよ。
- 3 『ひとりのできるよ、だいさくせん』中間発表会をして思ったことや、これから頑張りたいことを発表し、本時のまとめをする。
・今度は、毎日自分から進んでできるようになりたいな。
・もっと、一人でできることを増やしてみたいな。

学習材：チャレンジカード 掲示物
取り組んだことを発表する時に使う表現物

場：自分の取り組みを伝え、友だちの取り組みの良さを取り入れる場

○活動：
・少人数によるグループ交流では、同じ活動のグループで、今までの取り組みでできたことやうまくいかなかったことを交流する。また、友達のよいところを取り入れたり、友達にアドバイスをしたりする。
・全体交流では、友達の取り組みの良さを全体に広めていく。

6 本時 『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』の発表会で、自分のより成長した姿に気付く場面」(7/8)

指導者 ○○ ○○ 場所 1年○組教室

7 本時の目標

- 『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』を振り返り、自分のより成長した姿に気付くことができる。
- 『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』で、友達の頑張りやいいところを認め合い、今後も継続していきたいという気持ちをもつことができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

めあて2
もっとできるようになりたいな！
『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』

- 1 本時のめあてを確認し、前時までに学習したことを振り返る。
(1) 本時のめあてを確認する。

本時のめあて
『ひとりのできるよ！パワーアップだいさくせん』はっぴょうかいをしよう。

- 2 『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』で取り組んだことについて、発表会をする。

- (1) グループに分かれて、今までの取り組みを発表する。
○頑張ったこと ○うまくできたこと ○うまくいかなかったこと ○困ったこと
○自分の気持ち ○家族から言われたこと

※友達に自分のパワーアップした取り組みをわかりやすく伝えることができるように、表現物や表現の仕方を工夫させる。
※聞くポイントを持たせ、友達の発表を聞いていいところやまねしたいところを見つけ、感想や意見を言えるようにさせる。

- (2) グループの友達の良いところや、友達に教えてもらったアドバイスを全体に発表する。
・○○さんは、○○もできるようになってすごいなと思ったよ。
・この前○○さんが教えてくれたようにやってみたら、今度はうまくできたよ。

- 3 『ひとりのできるよ、パワーアップだいさくせん』発表会をして思ったことや、これからも続けてみたいことを発表し、本時のまとめをする。
・自分でできることがどんどん増えてうれしいな。
・もっと『ひとりのできるよ！パワーアップだいさくせん』を続けたいな。
・これからも、自分のことは自分で進んでしよう。

学習材：チャレンジカード 掲示物
取り組んだことを発表する時に使う表現物

場：自分の取り組みを交流し、自分のより成長した姿に気付く場

○活動

- ・少人数によるグループ交流では、前回よりもパワーアップしたことに重点を置いて交流する。
- ・全体交流では、友達の取り組みの良さや成長した姿を全体に広めていく。

全体で交流する場

グループで交流する場

